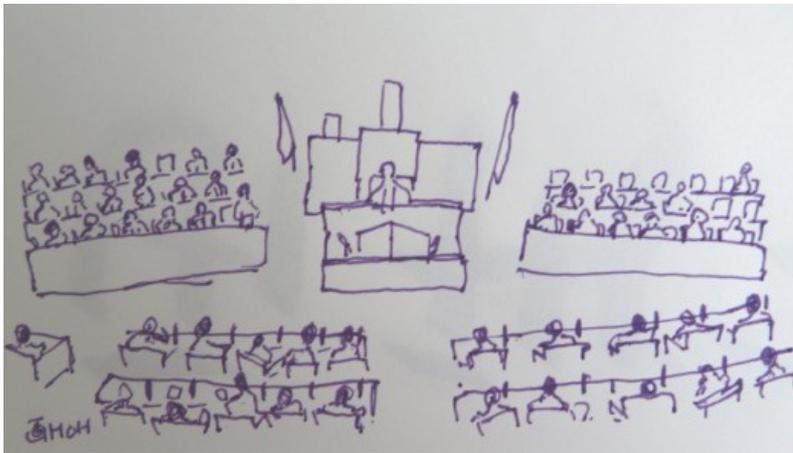


# 改ざん、県議会でも 領収書改ざんの議長は全容を明らかにし、辞職すべき



何ということでしょう、新潟県議会の金谷国彦議長が政務活動費の収支報告書に添付した複数の領収書を「書き換え」していたというのです。NHKの20日の報道によると、金谷議長が政務活動費の収支報告書に添付した複数の領収書に書き換えが見つかつたといひます。そして金谷議長は、このうち平成28年度の「調査研究費」として提出した領収書の書き換えに関わつていたことを認めたといいつております。

「そば代金」と書かれていたものを「勉強会参加費代」としたというのですからひどい話です。

金谷議長は、この領収書を含めた15件の請求に誤りがあったとして、20日、県の議会事務局を通じて18万2400円を返納する手続きをとつたそうです。

NHKは「複数の領収書に書き換えが見つかつた」としていますが、他にどんな「書き換え」があつたかはまだ本人も報道も明らかにしていません。まずは、議長がこうした中身をすべて明らかにすべきですし、県議会でも真相究明すべきです。

こうした事態を受けて、議長が所属する県議会の自民党は、「政務活動費の透明性を高めるため党内にプロジェクトチームを新たに立ち上げ」(NHK)、政務活動費の運用方法の見直しを本格的にしていくとしています。具体的には、政務活動費の収支報告書や領収書をインターネットで公開することなどを検討するといふのです。

政務活動費の運用方法について見直しをすすめることは当然のことですが、金谷議長が領収書の改ざんにかかわつたという一連の事実の究明や議長への責任追及はどうするのでしょうか。

政務活動費は県民の税金を使ったものです。全国各地で政務活動費の不正使用が問題となつていくなか、議長自らが領収書の書き換えを行つていたなどという事は、断じて許されませんし、県議会は事実関係を積極的に解明していかなければなりません。金谷議長は全容を明らかにした後、速やかに議員辞職すべきです。



【ヤマエンゴサク】ケシ科の多年草。漢字で「山延胡索」と書きます。花期は4~5月で、茎の上部に総状花序の濃い青紫色または紅紫色の花を咲かせます。写真は安塚区菅沼にて撮りました。

## 川西康之氏が講演 上越市議会議員勉強会

議員勉強会で、えちごトキめき鉄道(株)の嶋津社長と(株)イチバンセンの川西康之氏の講演を24日、聴きました。中身はこれからのトキ鉄のあり方やリゾート列車・雪月花と地域づくりについてでした。

このうち、著名なデザイナーでもある川西氏は、「デザインは必ずしも色や形や模様をつくるわけではない。仕組みづくりや人づくりだ」と強調し、総事業費6億円をかけた雪月花への思い、工夫などを語りました。

そのなかで、「オール新潟県でつくって、新潟県のシヨールームにする」「楽し



みをぞんぶんに提供し、楽しみ切れなかつた感をつくりだすことでリピータにつなげる」「車両の東西の出入り口はホテルの出入り口と同じようににした」「日本有数の照明の設計をし、演色性の高い素材をつかつた。窓ガラスは鏡にならないよう、外の明るさの変化に応じて照明に少しづつ絞りを入れていくようにした」など興味深い話をされました。

とてもいい勉強会でした。

はしづめ法一の  
活動レポート

No.1855 2018.4.29

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

「ありや、じちやの自動車のカギでねかな」。電動イスに座っていた母が急にそう言ったんですが、最初は何のことかわかりませんでした。

先日の夜のことでした。母を見ると、母はテレビの上の方にある長押（なげし）を見上げていました。そこは普段、よく見たことがありませんでした。近くまで行くと、確かにカギがありました。

父が亡くなってから、すでに九年が経過しています。こんなところに父の車のカギが置いてあるとは……。初めて知った私は、なんとも言えない感動を覚えました。

長押にかけられていたカギは二つです。そのうちのひとつはダンプカーのカギでした。ダンプそのものは牛飼いをやる前の段階で廃車処分したので、おそらく予備の合いカギだったのでしょう。

もうひとつは父が乗っていた軽乗用車のカギです。カギと一緒にあった小さな赤いマスケットで父の車のカギであることを確認できました。このカギを見ていたら、父の車をめぐるいくつかの出来事を思い出しました。

父は七〇代の後半に入って、何回か自動車事故をおこしました。そのうち、相手のある事故としては、たぶん最後だった事故のことを鮮明に憶えています。

場所は柿崎区上下浜地内の国道でした。「とちや、事故おこしちゃつと」。父は、いかにも申し訳なきような声で私に連絡してきました。前方不注意で他人の車にぶつかけ、自分の車も傷めた事故でした。人身事故にならなかつたのが不幸中の幸いでしたが、私としては、父が弱弱しく見えたのがショックでした。

この事故の前にも、父がカーブで車道の右側を走るところを見ていましたので、私

は、「父はもう、車の運転をやめた方がいいかも」と思うようになりました。

私が父の運転免許証を預かったのは、それから間もなくでした。車をスタートさせるとき、ペダルを踏み込み過ぎて急発進させるようになったのです。「この調子でハンドルを握っていると、いつか人を傷つけてしまうに違いない」そう思った私は、父の免許証を牛舎のある場所にしまいました。もちろん、父に断った上で。

長押にあった父の車のカギを私がしみじみと見ていると、車とは全く関係のないことを母が話し始めました。

「昔は青い豆、一斗ぐれえ、精米所に持つて行って、黄な粉にしてもらったものだ。そうすると、精米所んしよ、全部、黄な粉にしなるがかね、と聞いてきなつた。おらちは黄な粉、いっぺ食つたすけな。ノリカズの弁当もツトムの弁当もまんまの上に黄な粉かけて、端っこに大根やナスの味噌漬、二つぎれのせておいた。そうすると、喜んでたな……」

何で急に青い豆のことや弁当のことをしゃべったのかはわかりません。ただ、この母のしゃべりで、源小学校水源分校時代に、母が作ってくれた弁当のことを思い出しました。

正直言って、当時の私は子を思う母の気持ちを理解できず、弁当のおかずは同じくラスの人たちが持参したものよりも劣っていると思っていました。ですから、弁当を食べるときには、おかずの入っている部分を弁当のフタで隠して食べたものです。

この日は父の車のカギを十数年ぶりに見たお陰で、忘れていた昔のことをいくつも思い出すことができました。忘れられていた父の小さなカギ、これは記憶の扉を開けるカギでもあったのです。

## 古い写真、絵馬などから歴史を語る



### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月18日(水)	4月25日(水)
上越南消防署	0.047	0.047
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.057	0.060
東頸消防署	0.043	0.050
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.053	0.053

北越出版の佐藤和夫さんが軽井沢町で旧吉川町の古い写真を見つけたと連絡してくださったのは数年前でした。それ以来、古い写真や地図などをもとに歴史をひもとき、さぐる佐藤さんの話に興味を持つようになりました。

25日の直江津港湾協会総会における佐藤さんの講演は、直江津港の歴史と北前船の交流の痕跡を探るものでした。

「どこが港でしょうか」と尋ねたくなるような1枚の写真。「眼の前が全部港だこてね」というキャプション(説明)には佐藤さんらしいセンスがありました。そして、舩(はしけ)によって物産が荷揚げされ、「物」が一時滞留されることで相場をコントロールすることができた、そんな解説が入る。北前船といえば、江戸時代のものと思う人がほとんどです

が、各地に残る「引きれ」などから近代の明治でも活躍していたことも解き明かす。勉強になったし、楽しんで聴けましたね。

佐藤さんの講演では、よく年表が出てきます。この日の講演でも1689年(元禄2)から1945年(昭和20)までの年表が示されました。「『海に生きる人々』葉山嘉樹著 中嶋遊郭への羨望」かあ、年表作成者の遊び心というか、人柄がちょっぴり見ええました。

